

ActiveImage™ 2022

PROTECTOR

Cloud

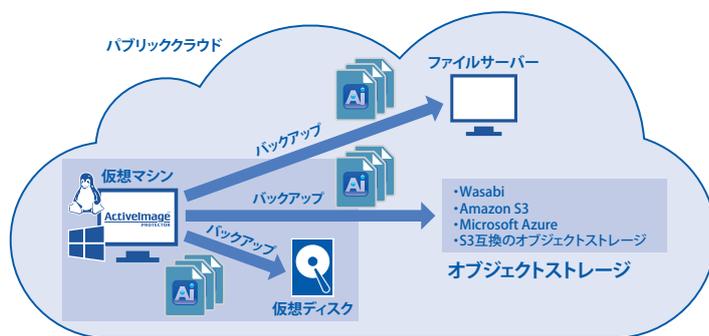
ActiveImage Protector™ Cloudとは

クラウド上の仮想マシンのシステム・データ保護ソリューション

ActiveImage Protector™ Cloudは、クラウドにフォーカスしたシステム・データ保護ソリューションです。オンプレミスの物理/仮想マシンと同じ操作で、クラウド上の仮想マシンのOSやアプリケーション、データといったコンピューターの内容を丸ごとバックアップし、システム全体を保護することができます。また、Amazon Web Services (AWS)、Microsoft Azure (Azure)、Google Cloud Platform (GCP)、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) といった主要なクラウドサービスに対応しています。

緊急時には、バックアップから簡単な操作で迅速にシステム全体を復元することが可能です。バックアップデータの保存先として、クラウド上のVLAN内のファイルサーバーや同一クラウド内外のクラウドストレージなど、システム構成や目的に合わせて保存先を設定することができます。

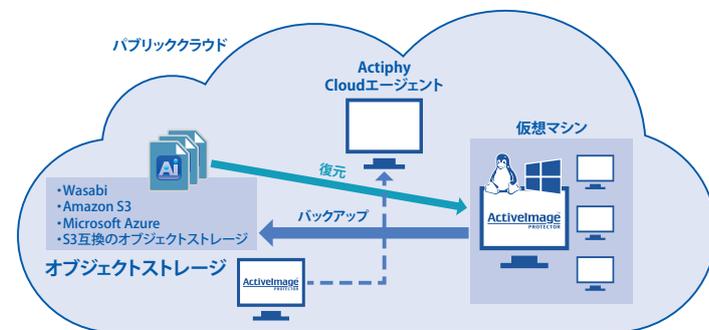
また、クラウド上での使用を考慮して、1ライセンスで、クラウドサービス上で稼働している仮想マシンを最大5台 までバックアップすることができる、費用対効果の高いライセンスをご提供します。



クラウド復元により障害時でもクラウド上で即時復元可能

クラウドストレージに保存したバックアップから、クラウドのコマンドラインや管理コンソールを駆使する複雑な操作も不要で、クラウド上の仮想マシンへ簡単にシステム全体を復元することが可能です。

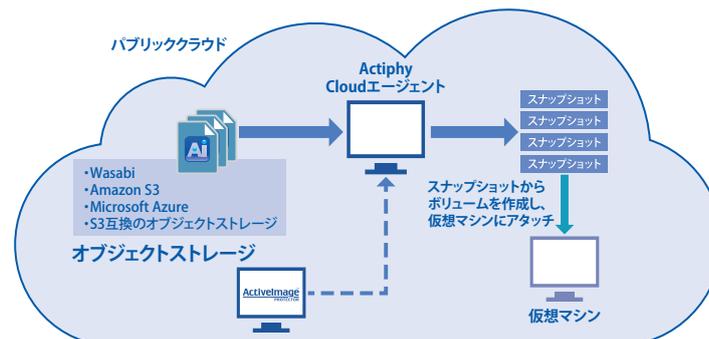
また、バックアップからボリュームやファイル/フォルダー単位といった柔軟な復元もおこなえます。クラウドシステムの管理経験の少ない方でも、クラウドのバックアップ運用を安全におこなうことが可能です。



クラウド上に即時起動可能な仮想マシンを作成可能

クラウドストレージに保存したバックアップから、スケジュールでシステムを復旧するためのスナップショットをクラウド上に作成できます。

緊急時には、復元作業を必要とすることなく作成したスナップショットからボリュームを作成し、それを仮想マシンにアタッチすることで、即時にその時点の状態でシステムを起動することが可能です。



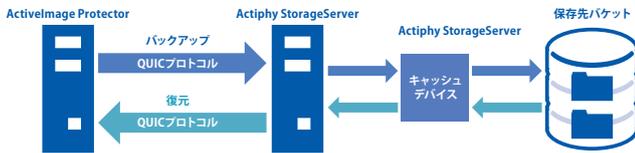
バックアップ機能

マルチクラウド環境に対応 NEW!

従来のAmazon Web Services、Microsoft Azureに加え、Google Cloud Platform、Oracle Cloud Infrastructureといった、クラウド上の仮想マシンのシンプルで統一されたバックアップ運用を実現できます。

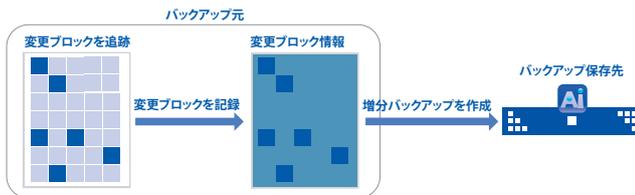
Actiphy StorageServer™ NEW!

Actiphy StorageServer™オプションは、ActiImage Protector™専用のセキュアなバックアップストレージを構築できます。独立した保存先として、ランサムウェアなどのウイルスからバックアップファイルの保護、新しい通信プロトコルQUICを使用した安全で効率的なバックアップデータの転送、また、保存先より高速なデバイスをキャッシュデバイスとして追加することで、安定した処理速度でバックアップをおこなうことが可能です。



新しいトラッキングドライバー NEW!

トラッキングドライバーは、ディスクI/Oを監視して変更ブロックを追跡/記録する増分バックアップのためのドライバーです。記録された変更ブロック情報から増分バックアップを作成するため、増分バックアップの処理時間を短縮できます。また、増分バックアップファイルの増加による、バックアップ処理速度の低下を抑えることが可能です。従来のドライバーを使用しない方式を選択して使用することもできます。



高速にシステム全体をバックアップ

Amazon Web Services、Microsoft Azure、Google Cloud Platform、およびOracle Cloud Infrastructure上の仮想マシンのOS、アプリケーション、データを含むハードディスクまたはボリュームを、丸ごと高速にバックアップできます。緊急時には、バックアップから、複雑な操作を必要とすることなく、迅速かつ確実にシステム全体の復元が可能です。また、ファイルおよびフォルダー単位の復元にも対応しています。

ファイルバックアップ

特定のフォルダー、ファイルを指定してバックアップできます。また、バックアップから除外したいフォルダーやファイルを設定できますので、バックアップの設定を一括しておこなうことが可能です。バックアップ対象は、ネットワーク共有フォルダー内のフォルダー、ファイルを指定したバックアップにも対応しています。

効率的な増分バックアップ

増分バックアップは、前回のバックアップから変更されたブロックのみをバックアップするため、保存先の容量や処理時間を大幅に縮小できます。

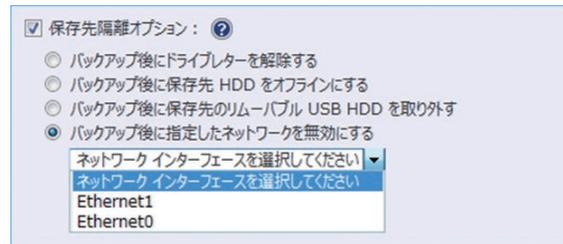


バックアップ作業終了後に保存先を隔離 (保存先隔離オプション)

バックアップ完了後に、保存先のディスクのオフライン化やネットワークを遮断し、ランサムウェアなどのウイルス攻撃から保存先やバックアップファイルを保護する「保存先隔離オプション」が用意されています。保存先隔離オプションは、以下の4つの方法で保存先を隔離します。隔離された保存先は、次のバックアップ開始時に自動的に開放されます。

- 保存先ディスクからドライブ文字の割り当てを解除
- 保存先ディスクをオフライン化
- リムーバブル USB HDD を取り外し
- バックアップ用LANのネットワークを遮断

※USB HDD を取り外した場合、自動で再接続をおこなうことはできないため、USB HDD ケーブルを抜き差しする必要があります。



自由度の高いバックアップ保存先

バックアップ保存先として、ローカル接続の仮想ディスク、クラウド上のVLAN内のファイルサーバーや同一クラウド内外のクラウドストレージ (Wasabi、Amazon S3、Azure Storage、S3互換のオブジェクトストレージ) などを利用できます。システム構成やバックアップポリシーに応じて柔軟に選択して利用することが可能です。

Wasabiオブジェクトロックに対応

Wasabi社のWasabi Hotクラウドストレージの、オブジェクトロックを有効にしたバケットを保存先として利用できます。一般的なNASと同様に、直接バックアップや保存されたバックアップから直接復元することが可能です。保存先としてWasabi Hotクラウドストレージを利用することにより、大容量バックアップデータを低コストで保管でき、サイバー攻撃に関連するリスクも軽減できます。また、バックアップをクラウド上で共有することにより、災害対策としても有効です。例えば、バックアップから別サイトの仮想マシンに復元し、運用を再開することも可能になります。

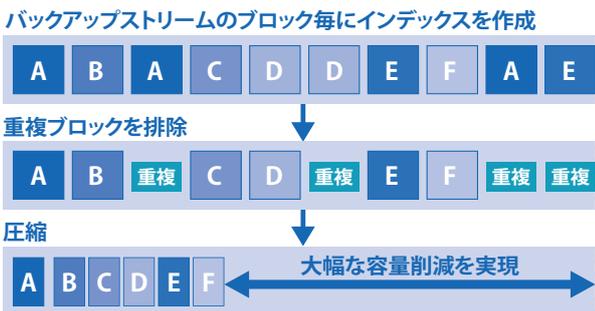


バックアップファイルの暗号化

パスワード保護と暗号化 (AES256ビット) したバックアップファイルを作成できます。バックアップファイルを暗号化することで、悪意のある第三者からの不正なアクセスからバックアップファイル内のデータを安全に保護することが可能です。

保存先の容量を大幅に縮小できる重複排除圧縮

ActiveImage Protector™の重複排除圧縮は、バックアップ時にデータブロックの重複を排除し圧縮することで、保存先の容量を約半分ほどに節約できます。なお、重複排除圧縮は、CPUやメモリーの使用率が高くなりますので、負荷が高いマシン環境では、処理時間、圧縮率ともにバランスのとれた [通常圧縮] をお勧めします。



整合性の高いオンラインバックアップ (ホットイメージング)

データベースやオープンファイルなど稼働中のサービスを止めずにバックアップを作成する、ホットイメージング機能を搭載しています。Windowsに組み込まれているVSS (Volume Shadow Copy Service) と協調してホットイメージングをおこないます。SQL Server、Exchange Server、OracleといったVSS対応のサーバーアプリケーションでは、より整合性の高いバックアップが可能です。

柔軟なスケジュールバックアップ

バックアップの実行を、1回のみ、週単位、月単位でスケジュールリングしたり、特定の月の特定の曜日にスケジュールを設定したりできます。また、初回のフルバックアップ作成以降のバックアップを、増分バックアップの作成のみとしたバックアップスケジュールを作成することも可能です。

マルチスケジュール

1つのバックアップタスクに対して、複数のスケジュールを作成できます。例えば、週単位のスケジュールで運用していても、毎月1日だけはフルバックアップを作成する設定を追加することが可能です。



バックアップの世代管理

保持するバックアップの世代数を指定することにより、バックアップ保存先の古い世代のバックアップを自動的に削除できます。バックアップ保存先の容量や保存期間のポリシーなどを考慮して設定することが可能です。



シャットダウン時に自動でバックアップ

システムのシャットダウン/再起動のタイミングで、バックアップを実行させることができます。万が一、定期的なメンテナンスのため再起動において障害が発生した場合でも、直前のバックアップから復元してシステムを復旧することが可能です。

スケジュールと連動したスクリプトの実行

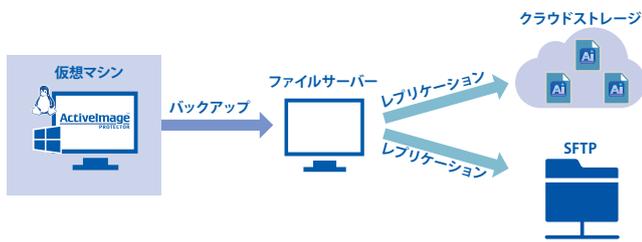
バックアップ時のそれぞれのタイミングでユーザーが個別の処理を挟みたい場合に、スクリプト機能が使用できます。例えば、スナップショットを実行する前にデータベースなどのキャッシュをクリアしたり、スナップショット実行後 (実際のバックアップ開始前) にデータベースを再開したり、バックアップ作成後にバックアップファイルをコピーしたり加工したりできます。また、スクリプトをベースバックアップと増分バックアップに対してそれぞれ独立して作成できます。

ポストバックアッププロセス

ポストバックアッププロセス機能により、バックアップ完了後すぐに、あるいは指定した時間に、BootCheck™、レプリケーション、結合など、イメージに対する操作をおこなうことができます。

バックアップファイルの分散化 (オフサイトレプリケーション)

作成したバックアップファイルを他の保存先に、スケジュールでレプリケーション (複製) できます。レプリケーション先として、ローカルディスク、ネットワーク共有フォルダー、FTP、FTPS、SFTP、WebDAV、Amazon S3、Azure Storage、Wasabi、OneDrive、Google Drive、Dropboxといった幅広い保存先を利用することが可能です。バックアップファイルを分散化することにより、バックアップファイルのセキュリティレベルを上げることが可能です。



増分バックアップファイルの結合処理

増分バックアップを継続していくとバックアップファイル数が増え、バックアップや復元処理のパフォーマンスが低下する場合があります。結合機能は、増分バックアップの結合をスケジュールでおこなうことができます。例えば、増分バックアップを7つ残す設定をした場合は、増分9のバックアップが完了した際に、一番古い増分1と2番目に古い増分2が結合されます。結合後に、結合済みの増分を除く7つの増分が常に保持されます。



メール通知

スケジュールバックアップの成功または失敗に関する情報をメール送信で通知するように設定できます。その他にも、タスクの概要やライセンス (使用期限) の通知も可能です。SSL/TSLが必要なメールサーバーに対応しています。

コマンドライン実行が可能

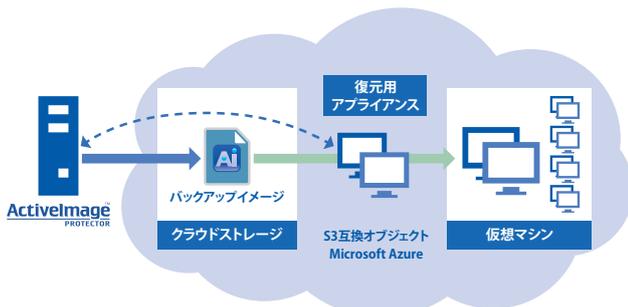
コマンドラインやコマンドファイル内で各種パラメータを設定して起動できます。ユーザーが社内で運用管理ツールを使用している場合、ActiImage Protector™によるバックアップを統合できます。

復元機能

クラウド環境への復元 (In-Cloud Recovery™)

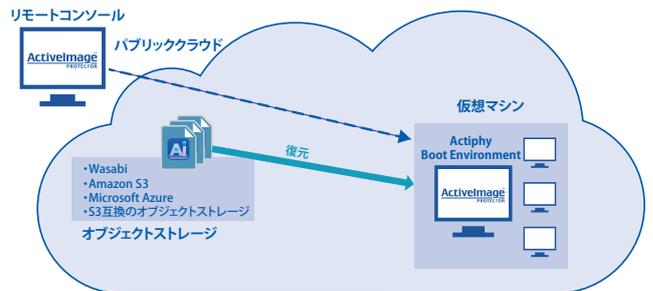
クラウドストレージ (Amazon S3、Azure Storage、S3互換のオブジェクトストレージ) に保存したバックアップから、クラウド (AWS、Azure) の仮想マシンへ復元できます。復元時のデータ転送は、同じクラウド上でおこなわれるため、同一リージョン内であれば転送料金はかかりません。

※ In-Cloud Recovery™は、Google Cloud Platform、Oracle Cloud Infrastructure 環境では使用できません。仮想マシンの復元作業は、RescueBootから起動した起動環境を使用しておこないます。



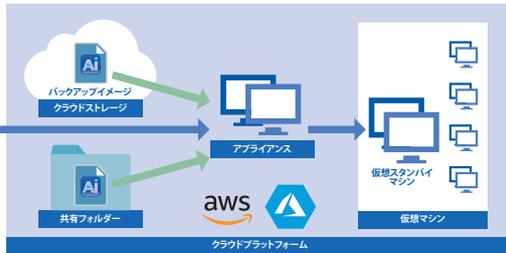
起動環境のリモート操作 (RescueBoot)

ActiPhy Boot Environment (起動環境) の外部メディアを必要とすることなく、内蔵ディスク内に起動環境を作成し、直接起動させることができます。また、RescueBootから起動した起動環境にリモートから接続し、バックアップからクラウド環境の仮想マシンのシステムを復元できます。



バックアップからクラウド上に 仮想スタンバイマシンを作成 (In-Cloud Standby™)

クラウドからアクセス可能なストレージに保存されているバックアップから、スケジュールでクラウド上にスナップショットを作成できます。緊急時には、スナップショットからボリュームを作成し仮想マシンにアタッチし、即座に起動してクラウド上で運用を再開することが可能です。



ファイル / フォルダー単位の復元

システムがクラッシュしたとき、特定のファイルさえ復元できれば業務を再開することもよくあります。バックアップから、ファイル、フォルダー単位で復元することができます。また、アクセス権等のパーミッション情報やストリーム情報も復元できます。

ベアメタルリカバリー (BMR) を短時間で実行

新しいハードディスクへバックアップから復元する場合でも、高速な復元エンジンにより、短時間で完了できます。ベアメタルディスクに対して、初期化とパーティションの作成がおこなえます。

別のハイパーバーザーの仮想マシンへの復元

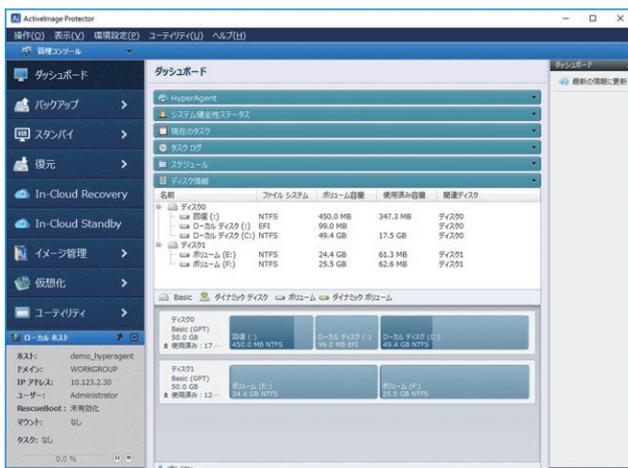
バックアップから、別のクラウド (AWS, Azure) の仮想マシンへの復元やオンプレミス環境のVMware vSphereまたはHyper-V上の仮想マシンへの復元など柔軟な復元作業をおこなうことができますので、管理者の運用工数を削減することが可能です。

※バックアップの設定で、あらかじめ仮想化処理を有効にしてバックアップを取得する必要があります。

管理機能

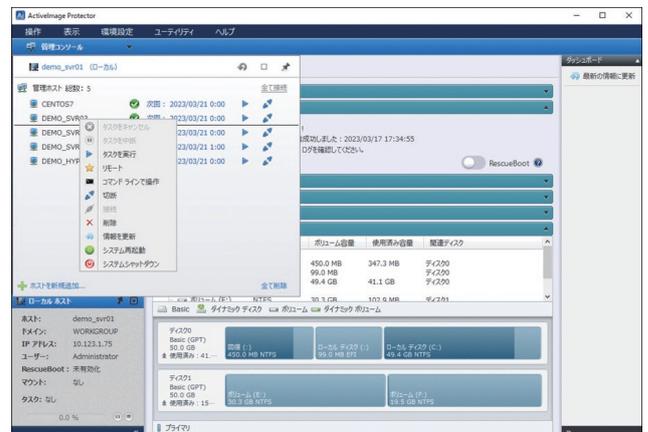
操作を効率的に処理できる管理コンソール

タスク、ログ、スケジュールやディスク情報を管理できるダッシュボード画面が用意されています。バックアップ設定や復元操作など、作業がより簡単かつ効率的におこなえます。



リモートコンソールを実装

リモートコンソールから、ActiveImage Protector™のエージェントがセットアップされたコンピューターをリモートから管理できます。リモートコンソールは、ネットワーク上の複数のエージェントのバックアップタスクの状況やスケジュールされているバックアップタスクの実行などをおこなうことができます。



バックアップファイルの管理

イメージエクスプローラー



バックアップファイルをWindowsエクスプローラーで直接開くことができます。これにより、通常のエクスプローラーの操作で、バックアップファイル内のフォルダーやファイルごとに復元することが可能です。

イメージマウント

バックアップファイルをドライブとしてマウントすることができ、バックアップファイル内のファイルやフォルダーを個別に復元することが可能です。また、書き込み可能としてマウントした場合は、変更部分を差分ファイルとして保存できます。

アーカイブ (統合) バックアップ

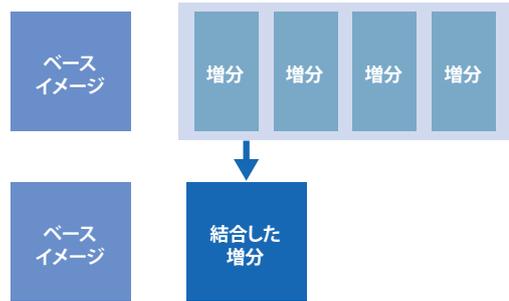
増分バックアップとフルバックアップ (ベースバックアップ) を合わせて、別の1つのバックアップファイルに統合して保存できます。



コンソリデーション (合成) バックアップ

増分バックアップを継続していくとファイル数が増え、管理が大変になります。コンソリデーション機能は、複数の増分バックアップを1つにまとめることで、増分ファイル数の増加を抑えることができます。

※スケジュールでおこなう場合は、ポストバックアッププロセスの「結合」機能を使用してください。

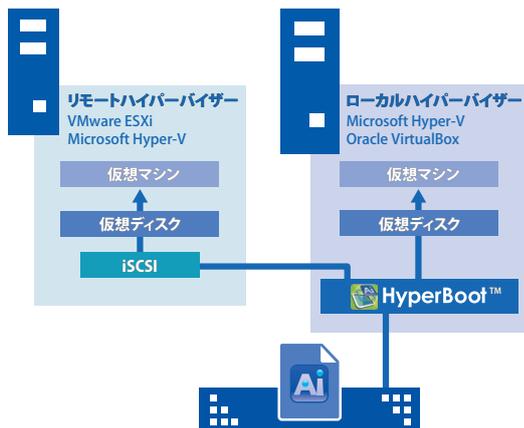


無償アドオンツール

バックアップから仮想マシンとして即時起動 (HyperBoot™)

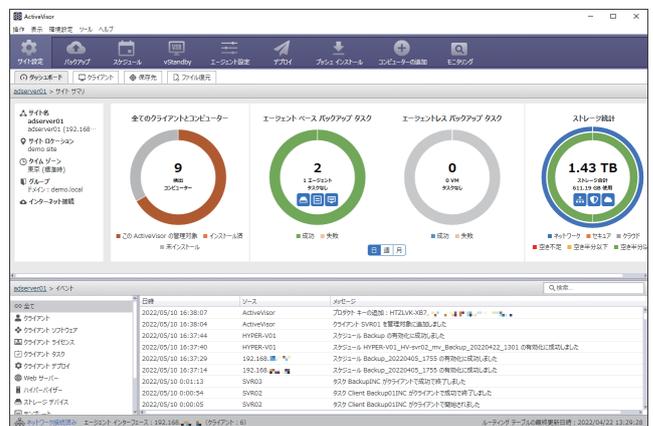
バックアップファイルを復元や仮想変換をせずに、直接仮想マシンとして即座に起動 (数分以内に) できます。一時的な代替マシンとしての役割を果たすので、障害が回復するまで暫定的にマシンとしての使用が可能です。また、ランサムウェアの感染からの復旧の際には、復元する前にバックアップの安全性の確認をおこなうことが可能です。リモートとローカルのMicrosoft Hyper-V、VMware ESXi、Oracle VirtualBoxで動作可能です。また、vCenterで起動した仮想マシンをvMotionを使って本番環境に移動することで、仮想マシンとしてリストアを完了できます。

※ LVM構成のLinuxマシンから取得したバックアップは非対応となります。



ActiveVisor™による集中管理

アドオンオプションのActiveVisor™により、ネットワーク上の複数のActiveImage Protector™エージェントがセットアップされたコンピューターの一元管理が可能です。管理対象コンピューターの自動検出からActiveImage Protector™のプッシュインストール、バックアップタスクのテンプレート作成 (設定ファイルのひな型) や展開、バックアップステータスの一覧管理、管理対象コンピューターのActiveImage Protector™エージェント情報、ハードウェアのインベントリー情報の取得、ActiveImage Protector™エージェントへのリモート操作など総合的に管理できます。



バックアップファイルのリモート管理 (ImageCenter™)

ImageCenter™は、ActiveImage Protector™のバックアップ元とは別のサーバーで、バックアップファイルの検証、結合 (コンソリデーション)、レプリケーション、BootCheck (起動テスト) の処理をスケジュール実行することができます。これにより、バックアップ元のサーバーに負荷をかけることなく、バックアップファイルの管理をおこなうことが可能です。



 マークはWindows版のみの機能です。



株式会社 アクティブファイ 〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町8番 NCO神田紺屋町
 TEL: 03-5256-0877 FAX: 03-5256-0878 <https://www.actiphy.com> sales@actiphy.com